

メディカルタイムアウトの運用について

(一社)千葉県バスケットボール協会U18部会
千葉県高体連バスケットボール専門部

1. 概要

- ①各ピリオド5分経過後の最初のボールデッド（シュートが入った場合も含む）となったタイミングでメディカルタイムアウトを宣する。
- ②両チームのプレイヤーはベンチに戻り、水分補給等熱中症対策を講じる。
なお、メディカルタイムアウトの時間は30秒とする。
- ③メディカルタイムアウト時も、交代は可とする。
なお、コーチの指導も可とするが熱中症対策を講じることを最優先となるよう配慮する。
- ④メディカルタイムアウト後に、通常のタイムアウトを連続してとることも可とする。

2. 運用の時機及び適用

- ①各ピリオド5分経過後のボールデッドとなった時。
- ②主審がメディカルタイムアウトを宣することを原則とする。
- ③審判が宣することを忘れていた場合、TOがブザーで審判に知らせる。
- ④メディカルタイムアウトは30秒とし、選手及び審判員の水分補給等、熱中症予防を目的としたタイムアウトである。
- ⑤メディカルタイムアウト中に、コーチの指導により水分補給ができていない状況がある場合、審判員はチーム指導者に注意をし、水分補給を促すよう注意喚起を行う。
注意喚起をしたにも関わらず、継続して指導を行い、水分補給ができない状況であった場合ベンチテクニカルを宣することもある。
- ⑥メディカルタイムアウト中の選手交代は可とする。

3. 5分経過直前・直後にどちらかのチームがタイムアウトを請求していた場合の対処

- ①5分経過前にタイムアウトを請求していたチームがシュートを決められた場合
 - 通常通り、シュートを決められたチームのタイムアウトが認められる。
但し、5分経過前のため、メディカルタイムアウトは宣せられない。
 - タイムアウト明け、5分経過後のボールデッドとなったタイミングであらたにメディカルタイムアウトが審判から宣せられる。
- ②5分経過後にタイムアウトを請求していたチームがあり、ボールデッドになった場合（シュートが入った場合も含む）
 - メディカルタイムアウトを審判が宣する。
 - チームが請求したタイムアウトについては、請求したチームのコーチの判断により取り消すことができる。取り消した場合、メディカルタイムアウト後にゲームは再開される。
 - 取り消さない場合、メディカルタイムアウト終了後に通常のタイムアウトが認められる（シュートを決めたチームもタイムアウトが認められる）。

4. 運用期日

令和6年7月21日（日）から8月4日（日）
令和6年度全国高等学校バスケットボール選手権大会（ウィンターカップ2024）千葉県予選会
1次ラウンド全試合 ※今年度は1次ラウンド全てのゲームで適用する
期間中すべての会場で適用される（公営体育館・学校体育館問わず実施）